

# スーパーリーグとWリーグの観戦者特性における比較研究 Comparison of Spectators' quality of Super League and W League

1K03B202-3 氏名 矢村 萌

指導教員 主査 原田宗彦 先生 副査 木村和彦 先生

## 【緒言】

1967年、日本バスケットボール協会の主催による「日本バスケットボールリーグ」が発足した。日本バスケットボール界トップクラスの実業団チームによる男女リーグ戦が行われ、日本におけるバスケットボールの普及、強化に貢献してきた。1996年には主催が日本バスケットボール協会からバスケットボール日本リーグ機構（JBL）に移行、1998年にはバスケットボール女子日本リーグ機構（WJBL）が女子リーグとして独立。日本バスケットボール界を背負う2つの組織だが、現在置かれている状況は似通っているとはいえないものである。

そこで本研究は、WJBL主催の「Wリーグ」とJBL主催の「スーパーリーグ」に足を運ぶ観戦者がそれぞれどのような特性を持っているのかを、両リーグの観戦者へのアンケート調査実施、その分析、比較によって明らかにすることが目的である。

## 【研究の方法】

### ・調査対象

\*2006年10月1日（日）越谷市立総合体育館  
06-07Wリーグレギュラーリーグ（第1試合：「日立ハイテクノロジーズスクエアレズ対日本航空 JAL ラビッツ」、第2試合：「富士通レッドウェーブ対トヨタ自動車アンテロープス」）

\*2006年10月8日（日）横須賀アリーナ

JBLスーパーリーグ 2006-2007 レギュラーシーズン（「東芝ブレイブサンダース対アイシンシーホース」）

### ・調査方法

調査員による訪問留置法の質問紙調査

### ・データの処理方法

SPSS 13.0J for Windows を用いて分析

### ・調査項目の決定

調査対象者の観戦者特性を把握するために、デモグラフィックスに関する変数、観戦者行動に関する変数、チケットに関する変数、情報入手に関する変数、観戦動機に関する変数、観戦者心理に関する変数を質問項目とした。

## 【結果と考察】

1. デモグラフィックスに関して、Wリーグには女性、10歳代、生徒・学生の観戦者が多く、スーパーリーグは観戦者の年齢層の幅が広く、出場選手内に家族・同僚がいる

割合が比較的高い。また、両リーグともに過去のバスケットボールプレー経験を持つ観戦者が多く、特にWリーグでは圧倒的。Wリーグには現在もプレーを実施している観戦者も多い。バスケットボール未経験者の観戦者獲得への努力が必要とされる。

2. 観戦者行動に関して、Wリーグには16人以上の多数で来場する観戦者が多い。一方のスーパーリーグは1人あるいは2人での来場者が比較的多い。

3. チケットに関して、Wリーグの観戦者は当日に会場で購入する人が非常に多い。スーパーリーグも当日に会場で購入する人が多いが、Wリーグに比べて前売り券の購入者や招待券をもらって来場する観戦者の割合が高い。

4. 情報入手に関して、Wリーグの観戦者は友人・知人・家族とバスケットボール専門雑誌から、スーパーリーグはチーム公式ホームページ、リーグ公式ホームページなどインターネット上から情報を得ている観戦者が多い。両リーグともに、ホームページなどの自己発信メディア、もしくは専門雑誌など、専門的なメディアから情報を入手している観戦者がほとんどである。一般のメディアへの露出を練る必要があると考えられる。

5. 観戦動機に関して、両リーグともにバスケットボール観戦そのものを楽しんでいる観戦者が多い。

6. 観戦者心理に関して、両リーグともに特定のチームを応援している観戦者が多い。また、両リーグの観戦者ともに、強い再観戦意向を示している。来場者の再観戦意向は強い場合、観戦者を増やすには新規ファンの獲得が必要とされる。

## 【結論】

分析結果から、Wリーグとスーパーリーグに来場した観戦者には、それぞれ異なった特性もあり、通じる特性もあることがわかった。それぞれのリーグの特性を活かしたマーケティングを行い、理念として掲げるバスケットボールの「普及」と「強化」に尽力して欲しい。